

平成28年度 第3回 豊田市環境審議会【廃棄物・循環部会】 会議録

【日時】 平成29年2月9日（木）午後1時00分～午後2時30分

【場所】 豊田市役所 東庁舎7階 東73会議室

【出席者】

（委員）

部会長 谷口 功 （椋山女学園大学人間関係学部 准教授）
山田 恭江 （とよたエコライフ倶楽部 運営委員長）
那須 進治 （豊田市区長会 理事）
杉山 佐江子 （市民公募）

（事務局） 太田ごみ減量推進課長、河合廃棄物対策課長、兼子清掃業務課長、
岩田清掃施設課長、加藤環境政策課長、小木曾環境政策課副課長、
松井ごみ減量推進課副課長、金原ごみ減量推進課担当長

【欠席者】

（委員） 前田 洋枝 （南山大学総合政策学部 准教授）
須賀 伸人 （あいち豊田農業協同組合 常務理事）

【次第】

1 開会

2 議題

（1）環境審議会からの申し送り事項

【資料1】これまでの審議会等での意見への対応について

【資料2】安全・安心社会における施策体系表

【資料3】「市民の環境行動力の向上と共働」の分野における施策体系表

【資料4】基本理念（案）について

（2）豊田市環境基本計画（素案）について

【資料5】廃棄物・循環社会における施策体系表

【参考資料1】豊田市環境基本計画素案（廃棄物・循環分野のみ）

（3）豊田市一般廃棄物処理基本計画（素案）について

【資料6】豊田市一般廃棄物処理基本計画の概要

【参考資料2】市民・事業者意見聴取（アンケート、ヒアリング）の結果報告

【参考資料3】豊田市一般廃棄物処理基本計画（素案）

3 その他

4 閉会

1 開会

部会長： 2つの計画の感触が見えてきたが、市民の役割や我々がやらなければならない事があると思う。もう少し修正があるが、引っかかる、違和感があるところ等に御発言・御意見を頂きたい。

2 議題

(1) 環境審議会からの申し送り事項

事務局： 資料1から4に基づいて説明

部会長： 施策名の「新たな価値観や暮らしに対する情報・体験機会の提供」で『豊かな暮らし、豊かさ』がキーワードとなっているが、市民が上手くイメージできるのか。

A委員： 資料3の施策の柱「環境行動を促す支援・仕組みづくり」を進めるに当たり、地域に根付いた交流館等からのノウハウを取り入れる必要がある。

部会長： 地域のノウハウ、環境活動を行政では何か把握しているのか。

事務局： 「わくわく事業」により地域の課題解決が行われている。ある地域では美化活動が、山村部では自然保全活動が行われている。それらが蓄積されればノウハウになるのではないかと思う。

B委員： 子ども向けの環境活動や保全活動の体験教育はあるが、高齢者向けがない。高齢者が集まる場所で啓発を行えば、高齢者の意識も変わるのではないか。

部会長： 日常の中で思わずエコ活動をしたくなるような動機付け、仕組みを考えた方が良いのではないか。エコポイントも1つの動機付けだが、喫煙ポイントの設定や分別したくなる仕掛けなどが必要ではないか。

高年齢だけでなく、外国人・移住者・障がい者など、「多様」な「ダイバーシティ」に向けた「ユニバーサルデザイン」の検討もすべきではないか。

C委員： 「わくわく事業」は3年で終了するが、山の環境整備などの取組は継続していく必要があるので、助成の継続を検討して欲しい。

倒木の片付けが自治区の負担となっており困っている。

事務局： わくわく事業が終了した後に支援できるものがあるか、現状では把握できていない。

C委員： 3年以上継続するのか3年で終了かを市の方で判断して欲しい。

事務局： 将来的には、市の支援がなくても自立した取組になることが望ましいが、現時点で支援が無いと厳しいことは理解できる。

部会長： 自立するまでの「繋ぎ」を各担当部署が考えることを求められる。

部会長： 各部署が各事業について責任を持って行うことは大切だが、他の計画と関連

するものもあるので、関連部署・関連計画が記載されているとイメージしやすいのではないかと。

事務局： 基本理念について、他の部会で、“先進的な環境技術”は“先進的な技術”で良いのではないかと、「地球にやさしく」という言葉は使わない方が良いのではないかと、という意見があった。

部会長： 「地球にやさしく」という表現が表面的に出すぎているという批判がある。この表現を使うならば、その対応を考えておかなければならない。

部会長： 「豊かさ」という言葉のイメージを各委員にお聞きしたい。

A委員： 何不自由なく生活できることが豊かさであると思うが、「地球にやさしく」より「環境にやさしく」という言葉の方が使われるのではないかと。

部会長： 「優しい」よりも「配慮」の方が良いのではないかと。そういった概念を使わずに「ダイバーシティ」「ユニバーサル」という言葉で充分配慮していることを表していると思う。

B委員： 電気を好きな時に使う事や、仕事がある事が「豊か」であると思う。

部会長： ここでは「精神の豊かさ」と言われるものを想定していると思うが、では「精神の豊かさ」とは何だかと思うか。

C委員： 住みやすい街ランキングに長久手市が1、2位に入っているのは、自然もある一方で都会でもあることから、住む人が豊かさを感じているからではないかと。豊田市も長久手市の状況に近いのではないかと。

部会長： 長久手市がランクインしている主な理由は、都市整備などのハード面での豊かさかと思う。もう一歩先の「豊かさ」、地域の関係性・人とのつながりなど、ソフト面での豊かさを見出したい。「豊かさ」という言葉は漠然としているので、行政としてイメージを説明できた方が良い。

(2) 豊田市環境基本計画（素案）について

(3) 豊田市一般廃棄物処理基本計画（素案）について

事務局： 資料5、参考資料1、資料6、参考資料2、参考資料3に基づいて説明

A委員： 資料2の「ごみ関連の情報の入手方法」について、とよたエコライフ倶楽部で配信しているエコライフメールは仮登録後に本登録を行う必要があり、手続が煩雑である。そのため、説明会等を開催する時には、一緒に仮登録を行ってもらえるなどのフォローを行っている。市の分別アプリでの情報入手の割合が低いのは、スマートフォンに分別アプリをダウンロードすることが難しいからかと思う。操作を簡単にする等によりダウンロードするまでのフォローを行えば、利用割合が増えるのではないかと。

外国人のごみ出しマナーについては、本人はやる気があり分別しているつもりだが、言葉が障壁となり分別できていない印象がある。どう伝えるかが課題ではないかと。

- C 委員： 前回の部会での議論を区長会に持ち帰ったところ、ごみの分別が変わった際に対応できない高齢者がいる、地域外から持ち込まれた不法投棄が多い、分別の区分が細かすぎる、犬を飼っている人のマナーが悪い、休耕田の雑草に困っているが勝手に刈っても良いのか、との意見があった。
- 事務局： 休耕田の雑草については、地主の了承を得て、自主的に刈ってもらうことは可能と考える。
- C 委員： 新しく始まったスプレー缶の出し方について、なぜ穴を開けてはいけないのかという意見を聞いている。
- 事務局： 穴を開けても良いが、他市での事故例を受けて国が穴を開けないという方針を出した。市民の安全を第一に、穴開けを不要とした。
- B 委員： 穴を開けなくなった経緯や、開けた場合の出し方などを説明すると取組みやすい。
- 事務局： 収集担当課としては、穴が開いているかより、危険ごみとして分別して出されることが重要である。
- 部会長： 排出方法が定着するまでは丁寧な説明が必要である。
- B 委員： 徳島県上勝町では、収集車が回らず各家庭からリサイクルステーションに持っていく方法が採られており、リサイクル率が85%と聞く。この方法は、市民が集まって話し合う機会が多く良い。豊田市で同じようなことはできないか。
- 部会長： 市民同士で分別するという事は、地域での関係をつくることに繋がる。基本計画でも「市民・事業者・豊田市」を強調しているが、コミュニティ・地域での役割を施策で示せるとよい。
互助や共助という言葉は、他の施策や計画と整合性を取らなければいけない。自助・公助・共助・互助の使い分けが大切だ。
- 部会長： 進行管理について、PDCAは重要であるが、V（ビジョン）やG（ゴール）を忘れないことも必要である。

3 その他

- 事務局： 次回の環境審議会は3月2日（木）15時からの開催となる。

4 閉会

以上 第3回廃棄物・循環部会 終了